

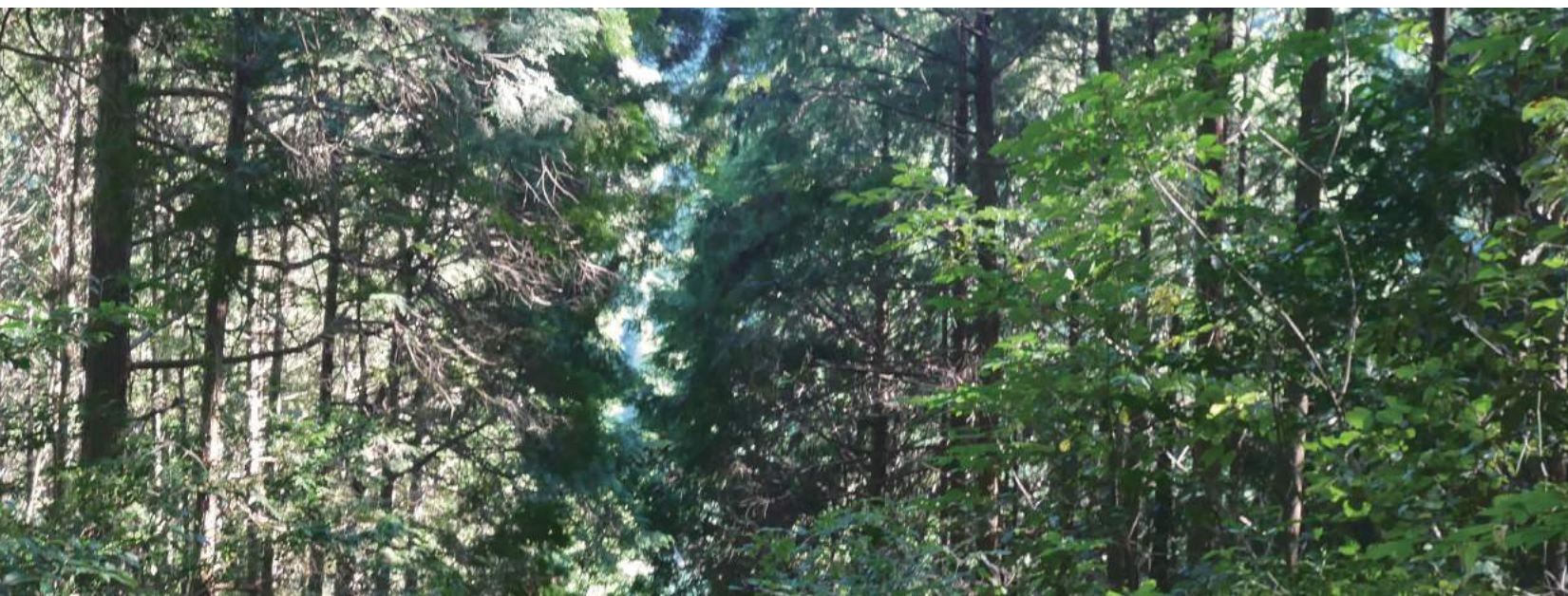


季節と、生きる。

マウンテン ママ

Mountain Momma

恵那山麓フリーペーパー Vol. 2



季節と、生きる。

Mountain Momma(マウンテン ママ)

恵那山麓フリーペーパー VOL.2

■発行日

平成 30 年 11 月 20 日発行

■発行

恵那くらしビジネスサポートセンター

■編集・取材・デザイン

中田 実希



vol.2

Mountain Momma

大文字の歴史に埋もれていく、山の近くの小さな文化を
発信していきたい、と考えて作ったフリーペーパーです。

もしかしたら10年後にはなくなってしまうかもしれな
い日々の暮らしの一端を少しでも可視化できたらいい
な、と思っています。

目次

01 特集 林業のこと教えてください

11 地域に残る お庚申さん伝説

19 おばあちゃんの知恵 栗きんとん・栗おこわづくり

23 連載 恵那山麓の民話口伝

27 移住者インタビュー 小澤 研さん

31 恵那へのアクセス

32 恵那くらしビジネスサポートセンター案内

特集

林業のこと 教えて ください

“林業”って実際はどんな仕事なんですか？

木の価格が下がっているとされる今、

普段は見る機会がない、林業の仕事現場にお邪魔しました。

林業のこと、教えてください！

林業で独立した佐藤さんの仕事場へお伺いしたのは、大型台風が日本列島を横断した翌日でした。その日の作業は岐阜県恵那市中野方町の森の中。元々の予定では別の場所での作業の予定でしたが、天候の影響で急きょ仕事場所が変わってしまっこともよくあるそうです。

人工林は人が手を入れ続けないとダメになる

——間伐をしないと森はどうなってしまうんですか？

佐藤さん（以下、佐） 人工林をそのままにしていると、光が入らない森になり、その結果、下草が生えず、土壌を支えるものがなくなってしまう。密集した木の根っこも大きな根にはならないから、余計に土が安定しない。木が密集していると雨が降った後、木々の葉っぱから落ちてくる雨粒はとて大きな粒となってしまう、表土がどんどん削られていく。だから、台風や災害があったときに、どうしても土砂災害の危険が増していきます。そんなことがあるので一度人間の手を入れた森においては、多くの場合、人が手を入れ続けたいといけない。人の手



が入っていない原生林は別です。そこでは人間の人工を超えていると思います。

——今日はどんな作業をやっているんですか？

佐 今日台風で倒れた木々を片付けるところからやっています。災害のときは、僕らみたいなのが手持ちの機械を持って被災地に入ればずっと早く片付くと思っています。

林業の世界に入ったきっかけ

——高校卒業後、奈良県の森林組合へ就職したとお伺いしたのですが、なぜ林業の道に進むことにしたんですか？

佐 高校時代に立花隆さんの『エコロジー的思考のすすめ』を読んだことをきっかけに、環境問題にとっても興味を持ちました。経済活動を含めて、すべての人が環境に対して責任がある、と思っただけです。だから環境に良い仕事をしたい、と思って入ったのが林業でした。

教えてくれたのは 佐藤 大輔さん



岐阜県恵那市三郷町在住。大阪生まれ、奈良育ち。森林組合作業班（奈良・岐阜）で11年間の経験を積んだ後、佐藤林業として独立。地域の山の管理を請け負う個人事業主として林業に従事。NPO法人夕立山森林塾の代表も務め、木の駅プロジェクトを推進するなど、地域づくりにも尽力。



——実際に奈良県の森林組合に入っただけで良かったか？

佐 正直、普通の会社や組織という感じで、環境に尽くす仕事だとか、そういう空気はあまり感じなかったです。これではいけない、と思いつつも、石の上にも三年。と父親言われたのもあり、四年間はそこに勤めて退職しました。

恵那市へ移住をしてからは再び森林組合へ就職され、その後2009年に独立。独立時から木の駅プロジェクト（間伐した材を持ち込むことで地域の飲食店やお店で使える地域通貨と交換できる、林業と地域を振興する公共事業）の立ち上げなど、精力的に活動をされています。

——どうして木の駅プロジェクトを？

佐 間伐した材を次の利用へ進めていく、というのが一番の想いです。僕は木を生命として捉える、木々を敬う気持ちを持ってこの仕事をすべきではない、と常々思っています。ただ細い木々は間伐した後、数百円にもならない。この細い木も市場に出すと三百円くらいですよ。大根一本くらいの値段ですね。それだと市場に出す

流通コストばかりがかかってしまう。市場に出してもお金にならない木でも次の活かす方法があれば、また違う形があるのではないかと、思っています。木の駅プロジェクトの立ち上げのお手伝いの仕事は全然お金にならなくて、普段の仕事を休んだりしながらやってきました。そのときに全国から人が来てくれたり、地域の人たちにも知られたり。そのときのつながりが仕事にもなったりしています。

——専門でなくても間伐をして木の駅に持ち込むことでお金（地域通貨）が得られる仕組みなんですね。市場での木材の値段ってどうやって決まっているんですか？

佐 市場での木材の値段は、主に木の太さと長さ（材積）、色や木目の細かさ（材質）で決まっています。この木なんかは幹が太いですが、中が腐ってしまっているのが材木としては売り物にはなりません。紙の材料や燃料用材になります。この木は千円くらいかな？間伐の補助金をもらいながらやっているような感じですよ。国産材は高い、高いと言われていますが今は普通の木材であれば、外材も国産材もそれほど変わらない値段です。

木の駅 プロジェクト って何？

「山を手入れしながら、地域を元気にしよう！」と、岐阜県恵那市中野方町で2009年12月から始まった社会実験です。

間伐した山の木を出荷すると、地域のお店で使える地域通貨券がもらえます。「道の駅」で規格外の野菜も売れるように、「木の駅」では市場に売れない木も出荷できます。

山仕事の素人でも気軽に参加でき、仲間が広がるのが「木の駅」の特徴です。

【出荷者さんの流れ】

- ① 間伐した材を伐採、搬出
- ② 出荷量を申告
- ③ 木の駅 土場に出荷
- ④ 地域通貨を受け取る
- ⑤ 地域のお店でお買い物



理想と現実のギャップ

——独立されてからはいかがですか？

佐 ずっと世の中に対して息苦しさを感じていたんですね。自然に沿った暮らしをしたい、とずっと思っていました。持続的な暮らしを続けていきたい、というビュアな思いがありました。もちろん、今もその気持ちはありますが、理想と現実には当然ギャップがある。小さい林業をしたい、セミプロのような人が増えてほしい、と思っただけですが、やはり専門じゃないとやれないことがある、と今は感じています。山は大きいですから。トラックやグラブや運搬車がないと、山の手入れを生業にしていくのは難しさがあります。

——独立されてからの山仕事の依頼はどういう方からお願いされることが多いですか？



佐 施業主としては個人の方から共有林、森林組合の下請けなど様々です。今は山に入る人が少なくなつたため、山で作業をしていると、あんたらどっから来たん？うちの山も見てつてよ、と声をかけてもらうこともありますよ。また、今住んでいる恵那市三郷町でも自治会やまちづくり委員会の役などをしていく中で、信頼されて町の神社の手入れなどをお願いされたときは嬉しかったですね。

——地域の方とのつながりも重要な仕事の一部分ですね。林業は冬の間にいうイメージがあるんですが、季節ごとに仕事の違いはありますか？

佐 昔は林業、特に間伐と言えば秋冬でしたが、今は年中林業をしています。夏の木は水を上げていて、皮が剥けやすく、腐りやすいんです。だから昔は流通されなかつた。ただ、今は流通が早くなつたことと、人工で乾燥もできるようになつ

たので夏も木を切る作業をするようになりました。あと雇用の問題もありますよね。一昔前、春夏は、植林や下刈り、枝打ち、除伐（じよぼつ）などの育林作業というのが割とあつたのですが、今は枝打ち材が安くなつてしまつたので。あと雨や雪が降つたら急ぎの仕事とかではなければ従業員の方はおやすみにしています。雨の日は滑りやすくなりますし。僕はなんだかんだ事務仕事をしています。天気で収入が左右されたりもしますね。

——技術の進歩や価格の変化などで林業の仕事も少しずつ変わつていつているんですね。一日の仕事の流れを教えてください。

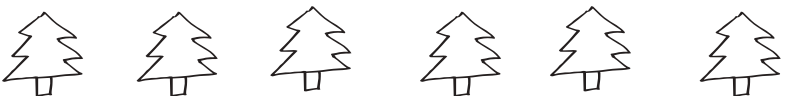
佐 8時に集合して仕事を始めます。お昼休みを60分取つて、17時ごろに下山することが多いです。休憩はお昼だけじゃなくて、午前中と午後一回ず

つ20〜30分くらいの休憩を取ります。動きっぱなしなので体力的に結構しんどいんですよ。暑くて熱中症になりそうな日は早めに下山しますね。林業とひとくちに言っても仕事はたくさんあります。木を倒して、測つて、切るのはもちろんですが、その木を林道を通つてトラックまで運んでいくのも労力がかかりかかります。まずは林道を作るところから仕事が始まることもありますね。

佐藤林業で8月から働き始めた妹尾さんと、隣の市からお手伝いに来ている湯山さんからお話を聞きました。

——林業ってどうですか？

妹尾さん（以下、妹） おすすめしないですよ。そもそも理想と現実の違いを知つた方がよい。



——えっ！おすすめしない理由はなんですか？

妹 一番は、死亡率が圧倒的に高い職種であること。毎年40人くらい死んでますよ。

湯山さん（以下、湯） ベテランの方でも若い方でも事故があるからね。

佐 ひと昔まえに比べて機械化で安全になったといえども、気が抜けない仕事ではあります。休みも少ないし。

妹 身体的な負担のわりに、賃金などを含めた待遇が悪かったり、体力的にきつかったりで離職率も高い。

佐 そこまでしてやりたいモチベーションがないと続けていくのは厳しいかもしれません。仕事を辞めて林業をはじめたあとも、工場勤務に戻る方も多くいますね。

湯 雨は降るし、泥にまみれるし、憧れとは違う。その面では面倒くさいことの多い移住にも似ているかもしれませぬ。

——理想と現実とは違うんですね。それでも三人が林業をつづける理由はなんですか？

妹 他の仕事に比べたらまだだから。デスクワークは僕は無理だし。自然の中で仕事をすると楽しさもあります。

湯 僕も事務仕事は無理だなあ。仕事をした後の before と After の違いがダイナミックなのはいいよね。

佐 間伐したところに、太陽の光がきらきらと入っていくのを見るのも好きです。あと間伐をしたところに五年後行くと、本当に豊かになった森と出会

えたり。ササユリが復活してたりね。

林業に向いている人、向いていない人

——どんな人が林業に向いていると思いますか？

佐 楽観的で応用力がある人が向いていると思います。あと何事も自分で考えつつ、体を動かすのが好きな人。身体能力の高さも必要です。逆にどれだけ理想があっても、どんな人や頭でっかちな人は向いていないかもしれませぬ。あと僕が大事にしているのは、絶対にケガをしない、という気持ち。山とにも埋もれたらいいなんて考えてたらだめですよ。冗談では済まない。

——最後に林業を目指している方へひとことお願いします。

佐 若くて学校へ通うお金があれば、岐阜県



立森林文化アカデミーなどの林業学校へ行ってみるのもいいかもしれません。岐阜県立森林文化アカデミーで林業を学べば年間150万円くらいは補助金があるんじゃないかな。林業は危険だし、大変な仕事ではありますが、山を持っていて困っている人もたくさんいるので需要のある業種ではあると思います。自然という大きなものを相手にしている。目に見えて景色が変わるダイナミックな仕事ですよ。



取材メモ

岐阜県立

森林文化アカデミー

森林や木材に関わるさまざまな分野で活躍する人材を育成することを目指して設立された、2年制の専門学校です。

NPO法人

夕立山森林塾

佐藤大輔さんが代表を務めるNPO法人です。林業講習会の実施、林業関係のイベントのお手伝いなどを行っています。



教えてください

地域に残る、

お庚申

伝説

ええよー。



失くしものをするど、
地元の人がお参りに行く
「庚申堂（こうしんどう）」
というものがあると
風の噂で聞きました。

その庚申堂に失くしたものを
お願いしてお参りをすると
失せ物が出てくるんだそうです。

現在も地域に根付く
信仰を覗いてみました。



今回訪れたのは、岐阜県恵那市の
南部に位置する恵那市上矢作町（か
みやばぎちょう）です。噂の庚申堂は、
民家の隣にひっそりと建っていました。
この庚申堂の世話をする安藤千
恵子さんからお話を聞きました。

千恵子さんのお話から見えて来た
のは、小さな山里の村で、宗教や信
仰を越えて、地域のコミュニティを
維持してきた、そんなひと昔前の里
山の姿でした。



千恵子さん「この庚申堂は明治28年に再建されたって聞いたよ。昔は初庚申日（一月初の庚申日）に旗を立てお供えしてお祭りした。今は日時は決まっていない。庚申堂のご神体はそれぞれ三体あって、一番左が宮の入、真ん中が宮の沢、それで一番右が漆原神社のご神体が入るとるんだわ。漆原神社は今もあるから、なんでここにご神体があることになったのかなあ。

物が失くなったとなれば、地域中の人がここに来てお参りしたよ。今はずいぶん来る人が減ったかな。でも正月にはお参りする人もいるよ。

失くしものをしたときは、お庚申さんに家でお願ひするだけでもいいのよ。それで、見つかったら七種類の菓子を供えるんよ。煎餅とか飴とか、七種類揃えるんよ。今はそんな迷信を信じる人も少なくなっただけだねえ。でもこの前、草刈鎌を失くしたときも、お庚申さまにお願ひしたら出て来たよ。こんなところにあつたかあ」とびつくりしたに」

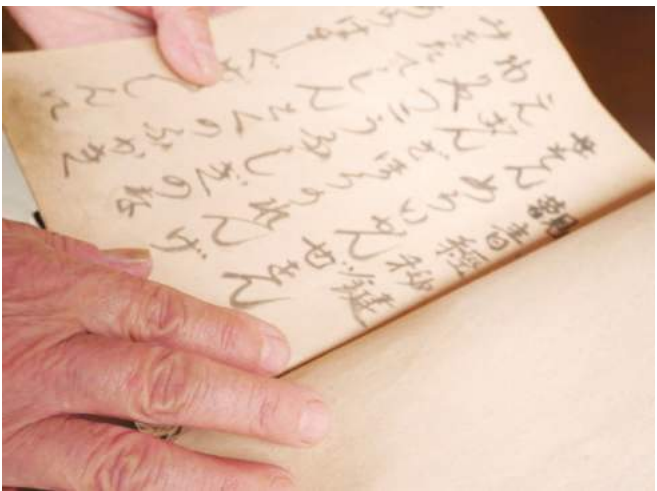
「神さまは、お庚申さま以外にも、お弘法さん、お観音さん、あと山の神さまもあるよ。

それぞれの違い？ いやあ集まる人が違うから。あと祭りの時期とか。口上とかも全然違う。何を祀ってるか、どんなご利益があるかとかは全然わからんなあ。嫁に入つて、お姑さんから、これはこういうものだって言われて、その通りやつてきたから。

昔は飲みたい人がいて、何かにつけて飲み連で飲んで楽しむ感じで、集まって色々やっていたんじゃないか、と思うけど、ようわからん」

取材メモ

庚申信仰（こうしんしんこう）とは、中国道教の説く「三尸説（さんしせつ）」をもとに、仏教、特に密教・神道・修験道・呪術的な医学や、日本の民間のさまざまな信仰や習俗などが複雑に絡み合った複合信仰である、とされています。今回の取材の中では、庚申堂を祀る場合と、掛け軸のお庚申様を各家で飾る場合では集まる人々やお祭りの仕方にも違いがあり、一言に庚申信仰と言えども同じ地区内で別の形式があるのだということがわかりました。





「どの神さまをお参りするときも、ご馳走を作ったよ。お弘法さんのときはぼたもちとか竹の子、山菜を重箱に入れて当番が持って行ったり、中日には紅白のお餅持って行った。今は勤めの人が多いから、土日にやろうとか、できるだけ簡単にやろうっていう風になっている。」

お観音さんのご利益といえば、一昔前、私の娘たちなんかは皆、家で産んどったんで、お観音さんを拝んだ時に灯した蝋燭をもらってきてお産のときに灯して安産を願ったよ。家で産まなくなつて、それはなくなつたなあ。

昔は拜んで楽しむ。楽しくてやってたんじやないかなあ。男衆はお庚申さま、女衆はお弘法さんと、お観音さんっていう感じでお参りをして

いる。

観音堂は、組々（一号、二号、三号、四号）にあつて、それぞれお祭りの仕方は違っているよ。

あと有志が集まっている庚申組は、やりたくないとか嫌だとかはなかったなあ。当番だ、やらなあかん。まあ、あの頃は肉はなかったから、家で採れたものでもてなした。酒とか、天ぷらとか、茶碗蒸しとか。大変だったよ。大変だろうから、料理屋行くようになったかなあ。私らにとつては、お祭りやお参りや当番は、楽しいも、嫌もなかったんよ」

仕事柄、地域の歴史や伝統を残していくことの難しさを実感しています。大事なものは人から人へ残し伝えられていくけど、必要ないものは廃れ、いずれ人々の記憶からも消えてしまう。そして、その要否の判断は、今を生きる私たちに委ねられています。この記事が、地域の暮らしを知り、地域にとって何が大切かを考えるきっかけになることを期待しています。



恵那市役所生涯学習課
課長 伊藤さん



おばあちゃん
の
知恵

教えてくれたのは

岐阜県恵那市長島町

美佐子さん



栗きんとん、栗おこわづくし

教えてくれたのは、地域の伝承の味を伝え続けて30年の美佐子さん。「私はただの農家の嫁よ」と豪快に笑いながら、栗きんとんと栗おこわのレシピを伝えていきます。教わるのは小学生とそのお母さん達です。

三世代が集まり、わいわいと鍋やボウルを囲む様子は、すこし前までは当たり前の光景だったのかもしれません。一時間半という短い時間の中で、出来上がったのはほかほかの栗と小豆のおこわと、80個にも及ぶ栗きんとん。

隠し味にすこしだけ塩を入れた栗きんとんには、和菓子屋の上品な味とはまた違う、素朴さと暖かさの漂う家庭の味がありました。



5



1



6



2



7



3



8



4

- 材料
 栗
 グラニュー糖
 (栗のむき実の15
 ٪20%)
 塩
 (2つまみ程度)
- 作り方
- 1 栗を蒸す
 - 2 栗を半分に割る
 - 3 中身をスプーンで出す



- 4 細くなるまでつぶす
- 5 塩と砂糖を入れ混ぜる
- 6 平らにしてレンジで2分間加熱
- 7 布で包んで絞る
- 8 完成!



連載 恵那山麓の民話口伝

狐に化かされた話

秋になると恵那の山々にもたくさんの茸が生えます。イクチ、シメジ、ロウジ、たまにはマツタケも。もちろん、これら食べられる茸だけでなく毒のある茸も生えます。知識がないと怖い茸採りですが、父の友人のヨッさんは茸を知り尽くした茸採りの名人です。ヨッさんは茸が採れるとよく見せに持ってきてくれ、茸のこと山のことを話していきます。数年前の秋、いつものように茸を持ってきて、お茶を飲みながらふと言ったのです。「狐は化かす」と。

数日前、ヨッさんはいつものように自宅近くの低い山に茸採りに入りました。ヨッさんは茸を採りながら歩きまわっているので、自宅近くの里山から少し離れた高原まで山を知りつくしています。登り始めたのは午後遅い時間でしたが、よく知った山のこと、ヨッさんは特に不安もありませんでした。「さあ茸を採るぞ!」と地面を見ると、こちらの木の根元、あちらの藪の中とそこらじゅうに茸が生えています。ヨッさんが夢中になって採りながら登っていくと、山頂に着く頃には籠いっぱいになっていました。山頂には狩猟小屋がありました。その小屋は平屋で外にはプロパンガスが置いてありまし

た。そこでヨッさんは一服すると、また茸を採りながら登り口とは反対側に下りて行きました。

こちら側でも茸が面白いように採れます。すでにいっぱいだった籠は今はいっぱいほども茸がつまっています。ヨッさんはこれだけ茸が採れることに気味の悪さも感じるようになっていました。気分を変えようと立ち止まって腰を伸ばすと、行く手に狩猟小屋が見えるではありませんか。「いつの間にかこんな下にも小屋ができたのだろうか」と思いながらよくよく見ると、山頂の小屋と同じプロパングラス。そして地面に目をやると、今いるところよりも先に自分の足跡。下っているはずなのに

ぜか山頂に戻ってきていたのです。「どういうこっちゃ」とわけがわかりません。悪いことに太陽は沈もうとしています。急がないと夕闇に取り残されてしまいます。あり得ない事態と、夕闇迫る山に心臓をつかまれるような恐怖を感じながらも、この時、直感的に「狐に化かされた！」と思ったヨッさんは、辺り一帯に響きわたるような大声で

「馬鹿野郎!!」

と叫びました。そして深呼吸をすると山頂まで行き、今度は脇目もふらず、行く先をしっかりと見据えて下ることで無事下山できました。



この話を聞き、ふと思ったことがあります。ここ数年狐が増えてきているな、と。子どもの頃は狸はしょっちゅう見るのに狐は一度しか見たことがありませんでした。それが大人になってからは狐を見ることが増えたと仲間が増えた狐が浮かれて、人間にちょっとしたいたずらをしているのではないかと思ってしまうのです。かそうとしている狐が用意した餌かもしれないですね。



書いてくれた人
市岡 めぐみさん

1982年岐阜県中津川市阿木生まれ。滋賀県立大学へ進学。大学卒業後は、京都の会社に就職。
2011年前に故郷へUターン。現在は、恵那山荘にて勤務している。





Q・恵那に移住したきっかけは何ですか？

元々、子供の頃からボーイスカウトをやったり、キャンプしたり、山登りしたりと自然が大好きでした。大学生の時にアラスカでアルバイトした事がきっかけで、その広大な自然に触れて、ずっとアラスカで住みたいなあと思っていました。その後、先輩の紹介で仕事が見つかり、約3年半ほどアラスカで生活しました。妻もアラスカがきっかけで自然の良さに気付きました、日本に帰国してからも都会で生活をしていて自然無しでは生きていけないなあと感じ始めました。わざわざ高いお金を払って名古屋から自然のある場所に通うくらいなら、そういう環境に住んだ方が断然いいということでも本格的に移住地を探し始めました。ずっとと思い描いていましたね。毎日がキャンプ生活という生活環境。夜は星を見ては、「自然はやっぱいいね！」という生活を送れ

たら最高だろうなあ。最初から、「住むなら、絶対！山の中！」と決めていましたね。約2年ほど、通勤圏内の山を探し回っていたのですが、たまたま友人が恵那市長島町にある久須見という地域に移住して、そこに遊びに行ったら事がきっかけで、正に自分の思い描いていた緑がある環境を探し当てることができました！でも最初はここから大学に通うのは難しいかなあと思いましたが、同じように里山暮らしをしながら、私よりもっと遠くから通勤している方がいて決心ができましたね。早速、地主さんから山を借りる交渉をして、そこに地場の木を使ったログハウスを建てました。実は友人の家の隣が現在の我が家という訳です。そして数年前に、私の両親も名古屋から恵那市の空き家バンクを利用して恵那市に移住してきました。



移住者インタビュー 小澤 研さん

1970年生まれ。静岡県磐田市出身。現在、長島町久須見在住。生まれてすぐに名古屋市名東区に移住。小・中・高と名古屋で過ごし、大学はアメリカのテネシー州、ユタ州に留学してマーケティングを専攻。卒業後、シンガポールやアラスカで旅行関連の仕事に従事。その後、日本（名古屋）に帰国して、2009年に家族で恵那市に移住。現在、名古屋商科大学にて職員として勤務。恵那から名古屋に通勤しながら、妻、息子の家族3人で恵那里山生活を実践中。

Q・恵那に住んでみてどうですか？

単純に街中と田舎暮らしとで比べてみて、ここは空気が澄んでいて呼吸するのがとても気持ちいいですね。そして植生が豊か。食べられる植物も沢山ある。山菜も朝起きて山の中に入れば昼食分が取れてしまう。本当に自然が豊かだと感じます。家庭菜園もやっているのですが、実はここまでハマルと思っていませんでした。町にいたらやってなかったなあと(笑)。やれることの可能性が色々ありますね。あと夏はクーラー無しでも高原のような環境で涼しいですね。実際、うちにはエアコンはありません(笑)。

そして地域の人には色々な意味で助けてもらっています。皆さん、さまざまな形で私をやっていて人間なのか？と探ろうとして最初は面食らいました(笑)。でも私に対して非常に興味を持ってもらえたようで光栄です！そして、今、そんな地域の方々と一緒に、この地域のさまざまなコミュニティ活動に参加しています。実際、自治会の役の多さには都会から来るとビックリするかも知れないですね。私も現在、組での役は三つ兼任しています。大変な事も多いのですが壁を超えてしまうと得られるものも多いのでとても充実しています。一緒にこの地域をつくっていくという感覚を持って活動していますね。今まで都会では自治会というものには入ったことがなかったのですが、今は、「これが自治なんだ」という感覚を持って活動しています。生きているという感覚がすごくありますね。そして私も微力ながら地域を良くしていくことができると実感できました。

Q・最後に恵那に興味がある方々に一言お願いします

やはり地域に馴染むためには地域の人々との信頼関係づくりを意識して努力する必要があると思います。地域は都会以上に人と人とのつながりで成り立っています。そこを無視すると…。長期的に見ると田舎暮らしがつまらなくなっていくと思います。最初は自然の中にいる心地良さだけで満足を得られると思いますが、やはり地域のいろいろな人と繋がっていくことによって自分の人生がより豊かになっていくと思います。

私の場合、ここに来て、恵那の自然や地域の人々との触れ合いによって、自分の可能性を生かしやすくなったと感じています。凝り固まった思考の枠組みを壊す機会に接することで、自分の中に眠っていた可能性に気付くようになる、何というかパラダイムシフトの連続ですね！ここには、そういうチャンスがたくさんあるんです。「ここに住みたいな！」という強い感覚を得た後は、どうすれば実現するかをひたすら考え、行動に移すことで移住を実現させることができました。移住を難しく考えすぎたり、周りからも移住についてさまざまな否定的な意見なども言われると思いますが、自分の中に覚悟さえあれば何とかなります。「案ずるより産むが易し」です。あれこれ心配するより、行動してみるといいと思います。



小澤さんが取り組んでいること

毎月第2日曜日の午前中に恵那市内のコースを歩いていきます。距離は6キロから10キロ程度の軽ウォーキングなので初心者向けです。詳しい活動内容はWEBサイトをご覧ください！



ウォーキングクラブ歩いCiao
<http://ciaoena.blogspot.com/>

ビジネス相談から移住まで
あなたの恵那暮らしをサポートします。

恵那暮らしビジネスサポートセンター

移住に向けて
暮らしの情報を知る



恵那市の住まいを探す



空き家バンクに
物件を登録する



体験イベントや
セミナーを探す



仕事を探す



起業・経営の
相談をする



恵那暮らしビジネスサポートセンター

<http://enalifebizsupport.jp/>

岐阜県恵那市大井町 206-5 (JR 恵那駅から 200m)

TEL 0573-26-2266 E-mail info@enalifebizsupport.jp

【ご利用時間】9:00～17:00【定休日】月曜日、年末年始

岐阜県恵那市ってどんなところ？

名古屋から車や電車で約1時間。

日本列島の中心部に岐阜県恵那市は位置しています。

人口約5万人の恵那市には、大きなショッピングモールも、映画館もありません。高齢化率も年々上がり、地域の課題は山積みです。

しかし、美しい山々があり地元で採れるおいしい野菜やお米があり、四季を感じる風景やおばあちゃんたちの暮らしの知恵が生活のすぐそばにあります。

生きるためのものはすべてある、岐阜県恵那市で暮らしてみませんか。

岐阜県恵那市へのアクセス

■名古屋から

電車で/JR中央本線

「名古屋」駅から「恵那」駅
約1時間

車で/東名高速道路

「名古屋」インターから
「小牧」ジャンクションで
中央自動車道へ
「恵那」インターで下車
約1時間

